



設立経緯

博物館明治村は、明治建築を保存展示する野外博物館として、昭和40年3月18日に開村しました。

初代館長谷口吉郎は、昭和15年に鹿鳴館が取り壊された際、当時の新聞に「明治の愛惜」と題する文を寄せ、明治建築の保存と活用を訴えました。

明治建築は戦災や震災により多くが失われ、ことに戦後の高度経済成長による大小の再開発の波は、追い打ちをかけるように多くの建造物を取り壊しへと導きました。

谷口の訴えに応え、取り壊される運命にあった建造物を救い、これらを保存展示する博物館の構想を支えたのが、谷口とともに旧制第四高等学校（現 金沢大学）で学んだ土川元夫（後に名古屋鉄道社長、会長を歴任）でした。

この二人が共に語り合った夢、そして当時の多くの人々から寄せられた協力によって博物館明治村は設立されました。

設立趣意書より

明治時代の各種の歴史資料を収集管理して博物館を設置し、広く一般に公開するとともに、明治の新しい精神に立脚した社会教育の振興により、現代及び将来の国民大衆に歴史の指針を与え、その一般教養の充実を図ることによって、文化の向上に寄与することを目的とする。